

本時について

(1)本時の目標

◎速く・簡単・正確に一円玉の枚数を調べる方法を考え、説明することができる。

(2)本時の展開

過程	No. 学習活動 ◎発問 T 教師の発言	○個別最適な学び ●協働的な学び ・予想される児童の反応	□留意点 ☆評価	第1段階児童への支援	第2段階児童への支援
<p>導入 4分 計 5分</p>	<p>1. 1円玉の枚数を調べる方法について考える。 T: 先生の家族は、この一カ月間、だれが一番1円玉を貯めることができるかを勝負してきました。一体、何枚たまったのでしょうか。みなさんは、何枚だと思いますか??</p> <p>◎ 1円玉の枚数を調べるには、どんな方法があるか考えましょう。</p>	<p>・100枚! ・1000枚! ・500枚! ・一番多いのはお父さん?先生かな?</p> <div data-bbox="810 708 1128 842" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ちがいを しっかりおさえる</p> </div> <p>・1枚ずつ数える。 ・2枚ずつ数える。 ・5枚ずつ数える。→5枚のまとまりを作る。 ・10枚ずつ数える。→10枚のまとまりを作る。 【既習事項を発展させると出る方法】 ・はかりを使えば、簡単に数えることができる。</p> <div data-bbox="562 1209 1128 1417" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>児童の意見からはかりを使った数え方ができれば、展開Ⅱでは別のものの数を調べてみる。</p> </div>	<p>□児童が1円玉の数を調べたいと思える自然な導入を行う。 □量感を養ったり、見通しをもたせたりするためにも、何枚ぐらいあるか予想を立てさせる。 □数え方の確認を一緒にする。 □いち・に・さん…。 □に・し・ろ・や…。 □5枚ずつ数えるのではなく、5のまとまりを作ることを押さえる。 □10枚ずつ数えるのではなく、10のまとまりを作ることを押さえる。 □児童から出た意見を板書で残しておく。</p>	<p>□授業内容に興味をもちにくい児童でも、楽しみながら学習に取り組めるような支援を行う。 □T2～T4が個別に児童に付き、T1が出す指示や質問を分かるように説明し、児童からの意見を聞き出せるような支援を行う。</p>	

◎ いろいろな方法で1円玉の枚数を調べよう。

2. 自分の考えをもつ。

◎自分がどの方法で調べたいかを考えて、ホワイトボードに名前カードを貼りに行きましょう。

○児童がそれぞれの興味関心に合わせて方法を選択する。

【個別最適な学び】  
児童がそれぞれの興味関心に合わせた方法を選択し、最適化された学習を行う。

児童が自分の興味関心に合わせた方法を選択できるように、伏せて挙手させる。

3. 考えが似ている児童同士でグループを作り、実践する。

◎異なる枚数の入った貯金箱を4つ用意してグループに渡し、枚数を調べる。また、その記録をワークシートに記入する。

○グループで1つの方法を実践し、時間を測る。

【個別最適な学び】  
考えが似ている児童同士で協力して実践し、その数え方でどのくらい時間がかかるかを調べる。

□T2が授業の進行に合わせてジャムボードを作成する。

□個人でどの方法がいいのかを考え、ワークシートに記入する。導入では挙がらなかった方法や複数人にならなくても良しとする。

□T2～T4はグループ活動の支援を行う。

□はかり、電子ばかり、電卓、クロームブック等を用意し、それらを自由に活用できるようにする。(児童からは見えないようにする。)

□ワークシート内に方法と数えるのにかった時間を記録できるようにする。

☆自分で1円玉を数える方法を選択し、工夫してそれを数えようとしている。

【態度】ワークシート・行動観察

□導入で挙がった方法を選択肢として提示し、自分の意見を持ちにくい児童への支援とする。

□ワークシートへの記入が難しい児童に対して、T1～T4は支援を行う。

□滑り止めマットとお皿を用意し、手先の器用さに難しさを抱える児童が1円玉を机から落としにくい支援をする。

□活動に参加できなくなると、他児童と一緒に数を数えるなどの簡単な役割をするように促す。

□全員が活動に参加できるように、全員の役割を決めてから数えることを促したり助言したりする。

□1円玉の枚数は、貯金箱ごとによって異なる。数え方やグループの児童の実態に合わせて、どの貯金箱を配布するかを判断する。

	<p>4. グループごとの調べ方と、かかった時間を発表する。</p> <p>◎グループの代表は順番に前に出て、自分たちのグループの調べ方と、かかった時間を発表しよう。</p>	<p>●他グループの発表を聞き、自分とは異なる考えや方法についてふれる。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【協働的な学び】 他のグループの調べ方やその良さを聞き、数を調べる方法がたくさんあることや、それらの方法の良さについて知る。</p> </div>	<p>□発表の際には、ジャムボードを活用することで、各グループの調べた方法とかかった時間を視覚的に比較し、確認できるようにする。</p> <p>□グループの代表者が調べ方とかかった時間を発表した後、他のメンバーは活動の感想を発表する。</p>	<p>□発表の直前に、グループのワークシートと机の1円玉の様子を写真に撮る。</p> <p>□困っている児童がいたら、理解できるように個別で支援する。</p>	<p>□積極的に発表できるように声掛けをする。</p>
<p>まとめ 10まいずつ数えるほうがはやい</p>					
<p>展開 Ⅱ (計9分)</p>	<p>5. 自分とは異なる意見を知り、それらを踏まえてさらに自分の意見について考える。</p> <p>◎どうやったらはかりを使って、1円玉の枚数が調べられるか考えてみよう。</p> <p>6. 全体でそれぞれの調べ方の良さや大変さについて話し合う。</p> <p>◎はかりを使って調べたら、数えるのどう違ったか発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貯金箱ごとにお金だけはかりにのせてみよう。</li> <li>・全部合わせて重さをはかればいいんじゃない。</li> <li>・1こずつ数えるのは大変だし、途中で分からなくなった。</li> <li>・2こずつ数えるのもたくさんあって大変。</li> <li>・10個のまとまりを作るのは、数えるときにわかりやすい。</li> <li>・はかりを使うと数えるより楽でびっくりした。</li> <li>・1円玉は1gだから、はかりにのせればすぐに重さが分かって、それが枚数と同じだと分かった。</li> </ul>	<p>□効果音が鳴り、「もっと早く数えられる方法を考えよ」というカードが届く。</p> <p>□グループごとに活動できるように、電子と上皿はかりは数台用意しておく。全員やることができるようにする。</p> <p>☆重さの単位(g)を用いて、1円玉の枚数を表すことができる。</p> <p style="text-align: right;">ワークシート【知識・技能】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>展開1、3の活動で、はかりを使った調べ方を実践したグループがいなければ、教師側からはかりを使った数え方を提示する。</p> </div> <p>□活動に参加できなくならないよう、他児童の活動を見て、できることを行う。</p>	<p>□全員が活動に参加できるように、机間指導をして声を掛ける。</p> <p>□集中力が途切れ、遊んでしまわないように、見守り、声を掛ける。</p>

まとめ計8分	7. 生活に活用できる場面について、全体で話をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティッシュ1枚1g</li> <li>・他のお金も調べてみたい。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 数を数えるだけでも、様々な方法があることや、道具を使うことでより簡単に早く個数を知ることができることを説明する。		
	◎ものの重さをはかって、個数を知ることはほかのものでもできます。何か思いつくものはありますか  8. ワークシートに今日の授業の感想を書く。 宿題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           ワークシート            はかりをつかって数えられるものを選びましょう。         </div>	<input type="checkbox"/> 同じものでないといけないことをしっかり押さえる。 <input checked="" type="checkbox"/> ☆はかりを使って個数が分かるものを判断できる。 <small>【思考・判断・表現】ワークシート</small>	<input type="checkbox"/> 机間指導をして、書けない児童には1時間を振り返りながら、活動を思い出させる。		

板書計画

月 日 ( )  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           1円玉のまい数をしらべよう。         </div> どんな方ほうがあるでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つずつ数える。</li> <li>・2つずつ数える。</li> <li>・5のまとまりで数える。</li> <li>・10のまとまりで数える。</li> </ul>	感そう Aグループ 1こずつ 時間 数えるのが大変	Bグループ 2こずつ 時間 2個ずつは楽	スライド	○研究の視点  <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとって適切な支援を考慮した授業となっているか。</li> <li>・日常生活の中で活用できる授業内容となっているか。</li> <li>・児童が学習するにあたり、それに適切な教具、指示が出せているか。</li> </ul>
	Cグループ 5のまとまり 時間 最後に数がわかりにくい	Dグループ 10のまとまり 時間 はやく数えられた		

えんだま かぞ かた  
1円玉の数え方をしらべよう

年 みどり組 名前

めあて 1円玉のまい数をしらべよう。

1. じっさいに<sup>かぞ</sup>数えてみましょう。

わたし・わたしたち のグループは、

\_\_\_\_\_ 数えて

まいでした

<sup>かぞ</sup>  
数えるのに

<sup>ぶん</sup>  
分

<sup>びょう</sup>  
秒かかりました。

<sup>おも</sup>  
と思いました。

2. きょうのじゅぎょうで分かったことを書きましょう。

---

---

---

### 3. しゅくだい

つぎの中から、はかりをつかって、かず かぞ数を数えられるものをえらび、まるをつけましょう。



りんご



えんだま  
50円玉



コーラ



たまご



けずったえんぴつ